

## 柏市図書館のあり方(案)パブリックコメント（意見公募手続）の実施結果を公表します

柏市図書館のあり方の策定にあたり、市民の皆さまからご意見を募集したところ、19名の方からご意見を頂きました。ご意見の提出ありがとうございました。お寄せいただいたご意見を整理し、市の考えをまとめましたのでお知らせいたします。

### パブリックコメント実施結果の概要

1. 意見募集期間 平成30年12月20日から平成31年1月21日まで
2. 意見提出者数 19名
3. 意見件数 65件
4. 意見内容 下記のとおり ※意見の頁（ページ）数は意見募集時のあり方（案）のページ数を表します

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
1	1	はじめに		「…図書館の持つ資料についても、単純に利用者が求める資料を収集するのではなく」と資料収集をより制限する方向で書かれている文面が目につく。市民の自立や学び合いは十分な土台となる人間力がないと成り立たない。それを支えるのが 図書館資料であり、情報であり、それを提供する図書館職員・図書館施設である。また、現在図書館の資料費は年々減らされており、その中で必要とされる資料を厳選して購入しているはずである。	p.9「2.資料収集」に記載したとおり、特定の書籍に限りある予算や限りある所蔵スペースを使うことは、本来市民が手にできる資料との接点を失わせてしまうことにもつながるため、複本の抑制が必要と考えます。このことは資料収集の制限ではなく、より多様な資料を市民に提供することにつながるものと考えます。ご指摘の部分については、未所蔵資料のリクエストの制限を意図していないため「同じタイトルの本を大量に収集するのではなく、市民の生活や学びを支えるために」と修正しました。
2	2	基本理念		基本理念「学ぶこと（学び）、分かちあうこと（共有）、創り出すこと（創造）を支え、」とあるが そもそも図書館とは そういった志がない人でも利用でき受け入れられる場所であり、柏市の図書館の基本理念「だれでも、いつでも、どこでも利用できる図書館をめざします」と矛盾する内容である。柏市の図書館の基本理念は 市民の感覚に根差した良いものだと考える。よって（案）もそれに準じた基本理念にしてほしい。	市の最上位計画である「柏市第五次総合計画」では、重点的に推進する取組として「地域と人をつくる図書館の推進」を掲げており、基本理念「学ぶこと（学び）、分かち合うこと（共有）、創り出すこと（創造）を支え、「ひと」と地域を育みます」と整合性がとれていると考えます。図書館は多様な市民が訪れる開かれた場であることが必要であることはP.8「◆施設（空間）」に記載しています。
3	2	基本理念		『学ぶこと(学び)、分かちあうこと(共有)、創り出すこと(創造)を支え、「ひと」と地域を育みます』について、異論はない。ただし、それを実現させるためにまずは、図書館はそれだけ魅力的な「場」であるか、が問われることになると思う。	いただきましたご意見を参考に、あり方の実現に取り組む中で職員の人材育成も含め検討してまいります。
4	2	基本理念		「学び・共有・創造」を基本理念とすることについて、賛成である。特に、「共有」については、柏市教育振興計画の基本構想理念の「学び合い」に基づくものであり、不可欠と考える。	
5	3	基本方針	1. 学び	生涯が始まるのは子ども時代から、である。従って、子どもが安心して楽しみ、知識を吸収でき、何度でも来たいと思われる場でなければ始まらない。その工夫がどこにあるか？ これが問われる。一方、成人するまで、また成人してから亡くなるまで、ひとはあらゆる段階で様々な課題を抱える。ひとは娯楽を求める以上に、必要から図書館にやってくると思う。その必要に応える工夫がどれだけあるかが問われる。ひとつの必要に応えれば、次回もまた来よう、となる。その意味でも図書館のレファレンスサービスの質・量を引き上げる必要がある。	

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
6	3	基本方針	2 ・共有	記載内容の方向が良い。その先にフューチャーセンター的な場の検討もあってよい。そこにはファシリテーションの専門家も必要になる。フューチャーセンターは事例のひとつに過ぎないが、地域の「問題解決の場」を（いささか遠くにはあられ）目指すのである。	
7	3	基本方針	3 ・創造	3ページの記載では、正直これでは伝わらない。一方で、7ページの「地域」の記載のここで「創造」が語られている。図書館が創造に貢献する道は、図書館が地域に踏み出す道だということだろう。必ずしも図書館員が外に出ていけ、という意味ではない。図書館が「柏と言う地域」をどこまで取り込んで、それを地域に返す、という往還的な工夫を持てるか、ということが問われるのだと考える。単に地域の歴史文化に関する書をコーナーに並べれば済む、という話ではない。まずは、図書館が「地域のインデックス」になり、それが自らの住む地域の見直し、さらに観光にもつながる……ようなアクティブな循環が起きてほしい。	図書館は地域とのつながりにおいて、その機能を発揮することが重要と考えます。そのための第一ステップとして、まずは地域資料をしっかりと収集していきたいと考えております。
8	4	子ども	学校図書館	複本については学校の授業で使用する資料等について、授業スケジュール等を含めて学校間を調整する役割を市の図書館が担うなど、学校図書館をまとめる役割を強化してもよいのではないかと。	いただきましたご意見を参考に、あり方の実現に取り組む中で検討してまいります。
9	4	子ども		◆未来を担う… ◆学校と連携し、… それぞれに「『自己有用感』を獲得する」といった表現が出てきます。「自己有用感」自体は否定しませんが、これは「自己肯定感」の上の段階だと思います。すべての子どもは（そして大人も）存在そのまま、丸ごとを認められる必要があります。「有用なもの＝価値のあるもの」ではないはずで、図書館ではまず「生きているだけで価値がある」ということを子どもたちに教えてくれる場であってほしいですし、ここにはそのことを書いてほしい。それをクリアした先に自己有用感があると思います。「学校に行くのが死ぬほど嫌なら図書館に来て」というようなツイートが流れて話題になったのは何年前だったのでしょうか。「図書館のあり方」について、「子ども」のキーワードで書かれるならこれは省かないでほしいです。そんなことは大前提としてあると皆さんわかっているとは思いますが、「生きているだけで価値がある」という考えはすべての人の共通認識ではないと感じていますので、あえて書いていただきたいと思っております。	今回「自己有用感」を、「他者との関わりのなかで、他者から必要とされていると感じること」と定義しました。子ども達が「自己有用感」を多世代の地域の方との交流を通じて獲得することを図書館が支援していきたいと考えています。自己肯定感についてはP.4に「自分が価値のある存在であると感じる「自己肯定感」と記載内容の追記を行いました。
10	4	子ども	未来を担う子ども	(4ページ8行目) 「自己有用感」については、文科省第十次提言に記載のある「自己肯定感」というキーワードを昇華させた概念であり、また、柏市教育振興計画の基本構想において示されている柏市の教育が目指す「かけがえのない自分という存在を大切にするとともに健康な子ども」にも通ずることから、適切でとてもよいと考える。	

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
11	7	地域		P. 7「地域」に書かれている通り、「地域資料の保存と活用」について「柏市の発展と重なる近現代の地域資料は、いま急速に失われて」いることは日頃から強く感じていることであり、これは非常に憂慮すべき問題であると思います。 このような資料は現在、特に記録についてはわずかな有志市民に支えられている状況ではないかと思われまます。「地域資料の保存と活用」は、行政としては図書館が担うべき課題であり、これは優先順位を高くし取り組むべきものと考えます。「地域」で示されている事項は、「子ども」や「つながり」の基盤になる部分でもあり、同列に書かれていることに違和感があります。	近現代の地域資料が急速に失われていることに危機感を持って取り組んでまいります。 また、「子ども」と「つながり」についても重要なものとして取り組んでまいります。
12	8	施設・職員	施設（空間）	図書館を交流の場にするのは、構想としてはいいと思いますが、出会いや交流の場と書くだけの裏付けがあると考えていいでしょうか。 例えばイベントができるホールのような場所、複数で使える部屋かブースのようなものなどを作るお考えがある、そのような広さを確保する、と。（ほかのことは運用の問題と思いましたが、これはそれなりのお金やスペースなどが必要と思いましたのでお聞きしました）	
13	8	施設・職員	施設（空間）	あり方(案)が目指す方向性を実現するためには、財源が厳しいので、すぐに新しく建て直すことは難しくても、すでに40年近く経ているので新しく建て直すことは必要になると思う。ただ今ある本館を使って「学び」「共有」「創造」をめざすためには設備面を充実させる必要があると思う。 多世代による利用を図るためには授乳室、一人で子どもを連れてきたときに使えるおむつ替えのできる設備や子どもを座らせておける設備、現状ではトイレにも行けない。 グループ活動の場として会議室は、活発な意見交換が行えるように防音していること。一人で調べものをしたい人のための集中できる静かな空間。聴覚障害のある人が対面朗読に必要な空間など、利用者のニーズによってゾーン分けや活動によって設備面を充実させることは最低限必要だと思う。	策定する「柏市図書館のあり方」は施設整備の計画ではないため、ご指摘の具体的な内容等については記載していませんが、P.8◆施設（空間）のなかで「多様な市民が集まる仕掛けが必要」と記載してあります。
14	8	施設・職員	職員	図書館職員に「これまで以上に地域と市民をよく知るとともに、市民やコミュニティの知的・創造的な活動を支えるための専門的な能力」「多様な専門知識や、関係機関や市民との関係性を構築するコミュニケーション能力や調整能力、政策立案能力」を求めています。が、「課題」にあるような業務効率化は当然のこととしても、図書館職員の人員数を大幅に増やせるわけもなく、おのずと限界があると感じます。また、このような業務は公民館や近隣センター、パレット柏など、既存他施設でも求められているものでもあり図書館が単独で解決すべき課題ではないと考えます。 昨今、各地で図書館などは複合施設として整備されることが多く、それは財政的な理由によるものが多いと聞きますが、そうではなく地域に求められる機能を実現するために複数施設が連携あるいは融合する、その中心に図書館がある、という考え方も必要ではないかと思えます。 現在、柏市図書館のあり方の検討がなされている一方で、公民館が入っている教育福祉会館の改修に伴う機能の見直しが検討されています。それぞれがまったく関連なく検討されていることに違和感があります。今回、柏市図書館のあり方においては建物についての議論はなされていませんが、今後の建物の再整備に向けて、あり方において他施設との連携あるいは融合していくことも今後の検討事項として加えてください。	いただきましたご意見を参考に、今後のあり方の実現に取り組んでまいります。なお、いただきましたご意見につきましては、P.11「協働でつくる図書館」に追記しました。市民・市民団体・NPO団体・民間事業者・専門機関・行政の他の施設や関係部署との連携は、あり方の実現に不可欠なものと考えています。

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
15	8	施設・職員	職員	多機能な図書館をめざすには、いろいろな資格・能力を持った方に職員として入っていただきたいと思いますが、図書館であるわけですから適切な資料収集、運営のためにまず司書をちゃんと配属していただきたいです。それ以外の職員はそのあとのことだと思います。	司書資格を持つ職員は、蔵書の構築や資料の組織化とその提供、レファレンス業務など、図書館運営にとって重要な役割を果たしていると認識しています。今後も司書の専門性を深めるとともに、あり方を具現化するための適正な人材の配置を進めていきます。
16	8	施設・職員	職員	「従来からのレファレンス能力に加えて～」市民の問題解決に向けて資料を探す能力や専門知識。柏市に關係する資料(歴史、文化、行政)を収集し、積極的に利用、紹介する。また様々なことに詳しい市民間を結びつけるための調整・連絡など多くの役割が職員に期待される。そして、職員だけが担うのではなく、そうした市民の参加を促し持っている能力を活用することには賛成。 しかし、現在の職員数ではこういった様々な役割を果たすには少なすぎる。図書館が収集してきた資料を認識し活用する。また様々なことに詳しい市民の参加や活動を支えるにあたり、その人たちとの信頼を構築するためにはやはりある程度の年数も必要だと思う。数年で異動する職員ばかりというのでは難しいと思う。 異動がなく、地域のことを熟知している、あるいは専門的な知識があるなどの職員を外部から募集して、地に足がついた継続的な活動をしてほしい。 図書館職員の人材育成の方針を検討するときに、司書の資格をもつ、図書館に興味があるなど、本人にある程度モチベーションがある職員を図書館に配属してほしい。再任用、定年間近になってから一から業務を覚えても1年2年で退職してしまうとなると研修することに人手が取られてしまい、職員が今まで以上の役割を担うことが難しい。またその職員自身もつ知識や経験、能力を發揮できる部署で働かないともったいないと思う。	
17	8	施設・職員	職員	司書の資格を持つ職員だけでなく・・・とありますが、現在の状況をどのように捉えているのでしょうか。専門の職員が十分に配置されているようには思えません。	
18	8	施設・職員	施設（空間）	(8ページ9行目)「静寂な場所であるとのイメージも変えていく必要がある」は、敢えて入れなくてもよいのではと考える。何故なら、既成概念を超える未来の図書館像を描きつつも、やはり図書館というところは静寂を味わえる場所であり続けて欲しいと考える市民は多いのではと考えるからである。‘大勢’‘賑やか’も大事であるが、‘ひとり’‘静か’な時間と空間もとても大切ではないかと考える。	ご指摘いただきましたとおり、図書館には静かに学んだり読書を行う空間が必要です。一方で、学び合いや創造的な活動では賑やかな空間も必要と考えます。他市の例をみても「図書館は静かにしなければいけない場所」というイメージを変えることは容易ではないと考えます。そのため、敢えて記載することとしました。なお、いただきましたご意見を参考に、P.8◆施設（空間）に「ひとりで学ぶ静寂の場」と記載内容の修正を行いました。
19	9	課題	1・財源と業務効率化	前項の「施設・職員」で、図書館職員に求められる能力や業務効率化などを行政職員だけで果たして達成しうるのか大変疑問に感じます。柏市図書館のあるべき姿を明確に示し、民間事業者のノウハウを活用することで、基本理念をより高いレベルで達成する図書館を実現することが可能ではないか、それを検討する必要があると考えます。今後の検討課題の一つとして民間ノウハウの活用を入れてください。	あり方を実現するために、最適な方法を今後も検討していきます。

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
20	9	課題	2 ・資料収集	資料の複本の多さを指摘しているが、比較されている市の人口が柏市よりも人口の少ない都市である。柏市では登録者が20%と少ないが人口が多い。ネット予約の手軽さもあり人気本には予約が集中する。現在の購入冊数を20冊を上限としているのは妥当な数だと思う。	<p>複本については検討のなかでも多くのご意見をいただきました。</p> <p>様々な意見が出され、最も意見が分かれた議題でした。</p> <p>特に、「第3回未来の柏の図書館について語り合おう！」では、資料収集や複本について多くのご意見をいただきました。また、第2回図書館協議会では複本を議題の一つとして意見聴取を行っております。</p> <p>市では、今回のパブリックコメントも含め、いただきましたご意見を参考に、何度も議論を重ね、P.9「2.資料収集」にあるとおり、限られた予算の中で多様な資料の収集を優先するため、過剰な複本を抑制する方針をとることといたしました。</p> <p>今後、資料収集方針等の見直しを行い、多様な資料を収集し、市民の皆さまへ提供することにより、あり方の実現に取り組んでまいります。</p>
21	9	課題	2 ・資料収集	限られた予算の中で、個人ではなかなか購入できない高額な図書、専門書などを購入するのはいいと思います。文芸書のベストセラーは少しでいいと思います。18ページご意見の中にある「寄付を募る」には積極的に賛成しません。自分で購入するか、個人的に貸し借りをする程度で、公共図書館がそこまで面倒を見る必要はないと思います。が、もしかしたらその貸し借りのイベントを図書館内のホールなどで開催して「交流の場」とするのはありうるかもしれません。	
22	9	課題	2 ・資料収集	あり方の資料を見る限り、柏市図書館の複本の多さは異常であると言わざるをえません。意見の中には、特に図書館協議会等で複本に関し肯定的な意見が出されているようですが、複本に限られた予算と空間と手間の多くを占めていることを考えると、現状の柏市図書館の公立図書館としてのあり方に大きな疑問を感じます。その点で「複本の抑制」は大いに賛成するものであり、早々に取り組むべきだと思います。同時に、P. 29「その他資料」分類別蔵書構成比によると、一般書、児童書どちらも「文学」の割合が非常に大きくなっています。文学が悪いとは言いませんが、この辺も問題と考えます。複本が多い分野が文学であろうことは予想され、複本を抑制することにより文学の割合が減ることも想像できますが、意見の中で専門書の充実などを希望する意見もあるところで、資料収集方針の中で分野の割合についても、柏市図書館のあり方で示すことを希望します。	
23	9	課題	2 ・資料収集	「複本の抑制が必要」と書かれていますが、このことについて今回のフェスやワークショップで議論がされたのでしょうか。ワークショップに参加しましたが、そのような意見は出ていなかったように思います。出版業界や著作者から図書館の複本を問題視する主張があることは承知していますが、図書館界や図書館利用者などからはきちんと反論がされていますし、今回の内容は一方的な主張であるように感じます。	
24	9	課題	2 ・資料収集	資料中にある柏市図書館の複本の方針は明確でよい。	
25	9	課題	2 ・資料収集	18ページご意見の中に「ある程度の料理本やハウツーもの等もそれぞれ揃えていくというのも間違いではない」がありますが、そういうものの内容（技術）はすぐに古くなってしまおうと思います。現在はほとんどの人がネットから情報を入手しているのではないのでしょうか。あるいは自分で本を購入するか。ある程度賞味期限の短いものも入れていくという方針ならばそれでもいいとは思いますが。	

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
26	9	課題	2 ・資料収集	P.1「はじめに」において「未来の社会で求められる新しい機能を担うとともに」と書かれていますが、技術的な機能についての記載が「デジタル資料の取り扱いについてもさらに検討」だけでは不十分であると思います。 動画なども地域資料の記録と保存、活用については、すでに各地の図書館でも多くの事例があるかと思えます。そのような様々なメディアによる記録や保存、活用のあり方も、柏市図書館のあり方としては大きな課題であり、もっと具体的な記載があるべきではないでしょうか。業務効率化にも関わる大きな課題と考えます。	動画等を含めたデジタル資料については、今後、あり方を実現する取組の中で先進事例の調査研究を行ってまいります。
27	9	課題		この項は、他の項のあり方(案)を受けて実現する課題としては、人口や予算減が前面に出て、せっかくのあり方の展望がみえなく、悲観的に感じます。 図書館と分館の分散と本館・分館の役割、分館の方向性は、整理して、理念を具体化するあり方の項をもうけて記述する方が良いと考えます。 課題としては、あり方(案)に基づき、現施設が役割を果たしているか、機能改善や新設、施設統合や廃止などの検討課題を抽出すべきかと考えます。 なお、財政的な問題は、各事業のあり方だけでは解決にはなりません、将来的な財政不足事情だけでなく、あり方(案)による図書館・分館のイメージや財政規模がどのようになるのか、今後の具体化での課題かとは思いますが、大まかな展望を示すことも必要かと思えます。	将来を直視しなければ、現実的で持続可能な図書館像を検討できないものと考えました。 今後は、いただきましたご意見を参考に、あり方の実現に取り組む中で、本館や分館の具体的な機能を検討してまいります。
28	10	課題	3 ・図書の分散問題と…	本館に調べ物ができる本や資料を集めるという考えには賛成です。	図書館の特長は、網羅性と専門性であり、資料同士の関係性を発揮できる物理的な空間を持ち、体系的な知識の提供ができることだと考えます。こうした図書館の特長を発揮できるよう取り組んでまいります。
29	10	課題	4 ・分館の方向性	大型の本館を新設し、分館を整理し集約する、といったような根本的な解決策が提示されておらず、漠然とした印象です。それなのに、学校の中に分館を整備する、空き教室の活用という案が書かれていて、非常に唐突であると感じます。	今回策定する「図書館のあり方」は施設整備の計画ではなく、今後の図書館像やその運営をするための理念や方針を示すものです。 しかし、学校図書館と分館の一体的な運用については、今後、検討していかなければならない分館像であるとの考えから記載いたしました。

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
30	10	課題	4 分館の方向性	<p>小規模分館に関しては財政面の課題を特に挙げていますが、それだけでなく複本が多くなる原因となっているとか、小規模な分館が地域で担える役割も限定的なものになるという問題も大きいと感じます。現状、多くの小規模分館は、人手がかかるだけで地域にとってのメリットが少ないのではないかと思います。</p> <p>その点で学校図書館との一体化は、地域における分館の役割を担いうる規模を担保することができればメリットが多く、大いに賛成するものですが、その際の本館と分館の役割分担について、本館は「調査や学習のための資料を集中的に配架」、分館は「地域のコミュニティ形成の機能を担う」では、果たして学校図書館としての役割との整合が取れるのか疑問です。その辺の説明が必要と思われます。</p> <p>また、分館の継続・廃止・統合・学校等との複合化などは、公共施設の更新計画全体に言えることですが、地域の実情に即して検討されることが望ましいことは言うまでもありません。画一的なものではなく、地域の状況に応じた多様な分館のあり方も選択肢にあることも示してください。</p>	<p>学校図書館法第四条第二項に「学校図書館は、その目的を達成するのに支障のない限度において、一般公衆に利用させることができる。」と規定されています。児童生徒や教職員の利用が優先されることを前提として公共図書館機能と学校図書館機能の運用について検討することが必要と考えます。先進事例を研究し、様々な選択肢を検討してまいります。</p> <p>また、地域の状況に応じた分館のあり方に関するご意見につきましては、P.10「4.分館の方向性」最終段落で「利用状況や地域の状況」と記載内容の修正を行いました。</p>
31	10	課題	4 分館の方向性	<p>学校図書館と分館の統合・複合化などはあってもいいと思います。</p>	
32	10	課題	4 分館の方向性	<p>(10ページ21行目)「学校の中に公立図書館の分館を整備し、一体化して運営する…」ことについては、学校がより地域に根ざすひとつの方策として、また、柏市教育振興計画基本構想にある‘積極的に教育に関わり、子どもたちの健全な成長を支える地域’づくりのためにも、具体性がある有効手段だと考えるので賛成である。</p>	
33	10	課題	4 分館の方向性	<p>分館の多さが指摘されており、今後の財政難を考えると減らすべきとあるが本館から遠い住民は分館の存在が大きい。最近では南部近隣センターのリノベーションの話し合いの中でもそのことに触れられていた。ワークショップでも分館の重要性を指摘する声も少なくなかった。</p>	
34	10	課題	4 分館の方向性	<p>近隣センターに併設されている図書館は、図書館と言える施設であろうか。本の貸し出し業務は、市民の要求に応じて職員が努力していることは評価したい。しかし、図書館は貸本屋ではない。市民が利用しやすいスペースと環境は欠かせない。私は、近くにある流山市の「森の図書館」を利用することがあるが、柏市の文化施設の貧困さに情けない思いをする。「柏市は文化果てるところ」と中傷されないように市側が努力すべきである。</p>	

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
35	10	課題	4 ・分館の方向性	分館の数が多く、コスト面から集約化と複合化を進めるにあたり、本館と分館の役割を明確にし、将来的には分館の継続、廃止、隣接する分館との統合を検討することによって、図書館を利用する機会を奪うことにならないか心配である。 子どもや高齢者、障害者が一人で利用することを考えると、本館・分館をつなぐコミュニティバスなどがあると利用しやすいと思う。本館と分館の役割分担されると今まで本館が遠くて利用しなかった市民も利用することが考えられる。 安全面と本の重さなどを考えると徒歩で利用するには限界がある。コミュニティバスは図書館だけではなく、市の施設を利用するためには必要だと思う。	
36	11	協働でつくる図書館		P.11「協働でつくる図書館」において、「市民の図書館離れが進んでいます。インターネットによる情報検索が容易になり、情報を得る目的での図書館利用も減少していくものと考えます。」とあります。この流れは不可避で、現実空間としての図書館には、インターネットによる情報検索にはない付加価値をつけていくことが求められますが、同時にインターネットで情報検索をする市民に対する情報提供も今後の図書館の重要な役割ではないかと考えます。 地域資料をはじめとした、図書館が持つ情報をインターネット利用者が活用しやすい仕組みで提供することで学びを促し、その先の共有や創造につなげていくことを、今後の柏市図書館のあり方として示すべきではないかと思えます。	今後、さらに調査研究を重ね、社会の状況に応じた図書館サービスの実現に努めてまいります。
37	27	その他資料	1 ・図書館の概要	27ページ 1. (1) 図書館の概要 昭和29年図書館の開館はどこだったか（おおまかでも住所を）書いてもいいと思います。	「昭和29年柏市立図書館開館（現在、アミューゼ柏が立地）」に修正しました。



No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
38	27	その他資料	6 ・複本に関する資料	<p>柏市と同等規模の他市の図書館や、近隣市の図書館との比較を掲載してください。他市と比較して柏市図書館がどうなのか、客観的に柏市図書館を見る資料が少ないと柏市図書館のあり方の妥当性について判断しづらいです。</p> <p>また、今回の柏市図書館のあり方策定にあたり、多くの図書館を視察されたと思います。そのような図書館の特色等について紹介する資料などがあると、今後の図書館をイメージしやすいと思います。</p>	<p>ご意見を参考にP. 40～P. 43に資料を追加しました。追加資料は柏市と人口ベースで同規模前後の全国の自治体を抽出し、調査を行ったものです。</p> <p>複本については、現状の他市の複本冊数を参考に適正かどうかの判断をするのではなく、P. 9「2. 資料収集」に記載のとおり、多様な資料の収集を行うため、複本を抑制する方針を優先する考えです。</p> <p>また、他市の図書館の事例等につきましては、今後市民との検討を行う際になどに、情報提供してまいります。</p>
39	31	その他資料	6 ・複本に関する資料	<p>データの選び方や提示の仕方に疑問を感じます。例えば、（5）タイトル別の蔵書冊数比較ですが、比較対象となる自治体が、人口に近い岐阜市と富山市はともかく、なぜ武雄、海老名といったTSUTAYA図書館を選ぶのか、また、伊万里、瀬戸内は評価の高い図書館ですが、人口が全く違います。どうしてもこの自治体で比較したいなら、市民一人当たりの冊数などを提示すべきではないでしょうか。県内で比較すると、例えば、「蜜蜂と遠雷」は、人口40万人超の市川市35冊、松戸市22冊で、人口20万人未満で柏市の約半分の習志野市17冊、八千代市15冊、流山市12冊、佐倉市17冊で、柏市の25冊が特に多いとは思えません。</p>	<p>ご意見を参考にP. 40～P. 43に資料を追加しました。追加資料は柏市と人口ベースで同規模前後の全国の自治体を抽出し、調査を行ったものです。</p> <p>複本については、現状の他市の複本冊数を参考に適正かどうかの判断をするのではなく、P. 9「2. 資料収集」に記載のとおり、多様な資料の収集を行うため、複本を抑制する方針を優先する考えです。</p> <p>また、他市の図書館の事例等につきましては、今後市民との検討を行う際になどに、情報提供してまいります。</p>
40	32	その他資料	6 ・複本に関する資料	<p>他市との比較では利用率や書籍数の比較だけでなく、図書館の実態（配置数や床面積・機能）や財政的執行状況などの比較も上げれば、市民にとっても図書館の設置規模や財政的な課題もみえてくると考えますので、調査分析の記述も必要かと考えます。</p> <p>※調査分析に関する参考例を付けて頂いておりましたが、数値が実際と異なる等が判明しましたので、ここでは割愛させていただきました</p>	<p>策定する「柏市図書館のあり方」は施設整備の計画ではないため、ご指摘の内容等については記載しておりません。</p> <p>あり方の実現に取り組む中で必要に応じて調査研究を行ってまいります。</p>

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
41	—	記載方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（1ページ4行目等）「多様化する価値観」は、「多様」「価値」という2つの重要なキーワードを含んでおり、冒頭の部分でこの言葉があることには意味があると考え。文科省教育振興基本計画等にも含まれるキーワードであり、強調すべきだと考えるが、文脈上、その後においては、必要以上に「多様」とか「様々」という言葉を頻出させる必要はないと考える。</li> <li>・（1ページ4行目）「様々な人の結びつきや」という表現は、「ひと(人)とひと(人)との結びつきや」としたほうが、曖昧だがイメージーションの自由があるかと考える。</li> <li>（1ページ13行目、3ページ10行目、8ページ5行目）「多様な市民」は、「市民」だけで十分通じると考える。</li> <li>・（3ページ14行目）「多様な資料」は、「豊富な資料」としてはどうか。</li> <li>・（8ページ7行目）「多世代の多様なニーズ」は、「幅広いニーズ」としてはどうか。また、「多世代」は「多様」に含められるとも考えられるので、若干、重複している感がある。</li> <li>・（8ページ12行目）「多様な市民」は、「多くの市民」としてはどうか。</li> <li>・（1ページ8行目）「厳選された」は、「厳選した」と能動的なほうがよいかと考える。</li> <li>・（1ページ最終行）「…取り組んでまいります。」とあるが、思わず、主語は誰なのか？と惑いそうであるため、主語を加えることが必要かと考える。また「…取り組みます。」とすっきり言い切るほうが真っ直ぐ伝わるのではと考える。</li> <li>・（2ページ基本理念「子ども」のところ、4ページ）「幸せに生きる力」とあるが、基本方針の「幸せをつかむ力」（3ページ5行目）に合わせたほうが、動作感があり尚よいのではないかと考える。4ページ7行目も同様。</li> <li>・（3ページ3行目）「これからの長寿社会においては、」とあるが、既に長寿社会であることから、「これからの」は削除し、「長寿社会においては、」とするとよいのではないかと。</li> <li>・（3ページ9行目）「図書館の持つ資料を…」というところは、「図書館は保有する資料を…」としたほうが、主体がはっきりしよいかと考える。</li> <li>・（4ページ11行目）「図書館は学校図書館の支援も重要な業務であり、…」は、「学校図書館の支援は図書館の重要な業務であり、…」としたほうが、学校図書館の支援が大事であることが伝わる。「…も」としてしまうと、取って付けたような感じになり、ここではあまり適切ではないと考える。</li> <li>・（5ページ2行目、12行目）「積極的な市民」と「控えめな市民」とわかりやすく対比させたいとする意図はわかるのだが、「ゆるやかなつながり」に触れているこの場面で、あまりにもはっきりとした「違い」の強調は必要がないと考える。それぞれを、例えば、「新しいことに挑戦する市民」と「参加の方法が分からないという市民」等、少し穏やかな表現にすることで、自然な流れになるかと思われる。</li> <li>・（5ページ21行目）「『公共の担い手』となるような市民の活動を支援するとともに、そのような市民の交流の場となります。」は、「『公共の担い手』となる市民の活動を支援するとともに、市民の交流の場となります。」としたほうが、言い回しとして明るい。「ような」や「そのような」は、曖昧で不安定な印象を与え、また限定的であるため、無いほうがよいと考える。</li> <li>・（7ページ6行目）「地域の活力には子どもの存在が不可欠であり、地域と子どもの交流機会の創出にも貢献します。」は、「子ども達の存在こそが地域の活力には不可欠であることから、子ども達が地域で交流できる機会の創出にも貢献します。」とすることで、子ども達を主に据えた前向きなフレーズになるかと考える。また、7ページ5行目に「子ども達」とあるのだから、「子ども」についてはすべて複数形にして共存感を含ませたほうが、コミュニティを語る部分では尚よいかと考える。</li> <li>・（7ページ15行目）「また、本市には様々な分野に詳しい市民が多く住んでいます。その知的創造活動により…」は、「また、多岐に亘る分野での市民の創造的活動により…」としたほうが簡潔ですっきりするかと思われる。</li> <li>・（7ページ16行目）「市民と協働してこれらの…」は、「図書館は、市民と協働してこれらの…」と「図書館」を主語に据えたほうが、文意がはっきり伝わるかと思われる。</li> <li>・P.9～10課題とP.11協同でつくる図書館を順番を入れ替える 協同でつくる図書館の項は、一連のあり方を示すものであり、課題より前が良いと考えます。</li> <li>・（9ページ23行目）「貸出冊数や利用者に代わる成果指標の検討を進める」ことについては、前向きな目標を掲げておりよいかと考えるが、成果指標について、もう少し掘下げた具体的な説明等を加えたならば、更によいかと考える。</li> <li>・（10ページ3行目）「分館には市内に1冊のみの図書も多く配架されており、例えば3万6千冊の蔵書がある南部分館では、その内の1万2千冊の図書が市内に1冊のみとなっています。」は、「分館には市内で唯一の図書も多く配架されており、例えば3万6千冊の蔵書がある南部分館では、その内の1万2千冊が市内に1冊しかない図書となっています。」としたほうが、文脈が整理されるかと考える。</li> <li>・（10ページ24行目）「…として図書館が求められているものと考えます。」は、「…としての機能が図書館には求められているものと考えます。」としたほうが、適切な言い回しかと考える。</li> <li>・（10ページ31行目）「継続・廃止・隣接する分館との統合・学校等との複合化など様々な選択肢を検討します。」は、「継続・廃止・隣接する分館との統合や学校等との複合化など様々な選択肢から検討します。」としたほうが、より適切な言い回しかと考える。</li> <li>・10ページ 4.分館の方向性の記載内容中、「その規模（床面積）は200㎡前後」とありますが、27ページの資料を見ると200㎡以下がほとんどです。200㎡を越えているものはこども図書館を入れても3館しかありません。細かいかもしれませんが「ほとんどが200㎡以下」という書き方のほうが実態に合っているのではないのでしょうか。</li> </ul>	<p>ご指摘いただきました該当部分につきましては、適宜検討を行い修正を行いました。</p> <p>修正を行わなかった以下の8点についての市の考え方は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●（8ページ5行目）これからの図書館には、目的を持たずに来る人、本を読むためではなく会話や出会いの場として利用するために来る人など様々な市民が集う場になって欲しいと考えます。そのことを強調するため「多様な」としました。</li> <li>●（8ページ12行目）ここでの「多様」は数の多少ではなく、様々な立場や背景を持った市民や幅広い年齢層の市民が集まることを述べているため「多様な」としました。</li> <li>●（2ページ基本理念「子ども」のところ、4ページ）ここでは子どもを対象しております。それぞれの子どもの成長に合わせて「幸せに生きる力」を涵養して欲しいとの思いから、P.3「1.学び」の「幸せをつかむ力」と表現を分けました。</li> <li>●（5ページ2行目、12行目）目的を持って訪れる公民館等の施設と異なり、多様な市民が利用する図書館は、ここで挙げたような「控えめな市民」が訪れる公共施設であると考えています。この特徴を活かした施策を検討するためにも、敢えて「控えめな市民」との表現を使いたいと考えます。</li> <li>●（7ページ15行目）本市には各種分野に精通した専門家や一般市民が住んでいます。まず、この認識を共有したいと考えました。そのため、ここでは敢えて「～市民が多く住んでいます。」と表現しました。なお、「様々な分野」は「多岐にわたる分野」に修正しました。</li> <li>●P.11の「協働でつくる図書館」については、結びとなり、今後、市民と行政が一緒になって図書館をつくり上げていきたいことを表明する内容となっています。そのため、最後に配置したいと考えました。</li> <li>●（9ページ23行目）新たな成果指標につきましては、今後、あり方の実現に取り組む中で検討してまいります。</li> <li>●（10ページ3行目）ここでは、市内の図書館で、複本のない図書が17の分館に分散している事実をお伝えしたいと考えました。希少性のある図書なのかどうかは判断していないため、「唯一」、「しかない」よりも「のみ」という表現を使いたいと考えます。</li> </ul>

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
42	—	全体		<p>「個人では購入困難な高額な図書、書店やネット通販での購入が難しい雑誌や書籍」「複本の抑制」「本館には、調べ物ができるように、必要な調査や学習のための資料を集中的に配架することを検討します。」「分館については、多世代の地域の方が出会い、交流できる「つながりの場」と考え、地域のコミュニティ形成の機能を担う場となることを検討します。」などの文言が印象に残る。</p> <p>これらの課題については、「ご意見」に多くの光る言葉があった。それらも含めて、以下に印象に残ったものをいくつか転記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書店との違いとして「共有の場」であることが大事(パレット)</li> <li>・挑戦を促す場所であってほしい。自分で買えない難しい本が読めるだけでなく、講座やイベントを開くことで、</li> <li>・学び直しや、起業への挑戦を応援することもできるはず。学びのセーフティネットとなってほしい(パレット)</li> <li>・いまの中高生は、学校で調べ学習やグループ学習によるアウトプット型の教育を受けてきているが、学校以外にこれを実践できる場がない。(中高生 WS)</li> <li>・数が多いだけでなく、質のいい蔵書があると人が集まる(Nob)</li> <li>・網羅性と専門性が書店との違い。点の情報ではなく関係性の可視化が大切(Exedra)</li> <li>・購入と寄贈を分けて考えることについては、県南の図書館ではベストセラー的なものは寄贈募集をよびかけているように、市民が市民に還元していく流れをつくってもよい。(協議会2)</li> <li>・複本については児童書と一般書を分けて考えないといけない。児童書は評価の定まったロングセラーが多い(協議会2)</li> <li>・参加のハードルが低い「集える場」と「つながる場」が必要ではないか。点と点を見える化してつなげる工夫が必要ではないか(WS1まち歩き)</li> </ul>	<p>検討の中でいただいたご意見については、今後のあり方実現の検討の中で整理し、参考とさせていただきます。</p>
43	—	全体	<p>「いただきましたご意見」を拝見すると、図書館の本来業務に対する不満、付加機能への要望、独自性への期待が混在している。整理すると、市民が求める図書館像が、より明らかになるのではないか。</p>		
44	—	全体		<p>24ページで意見があります。</p> <p>「施設内のデジタルアーカイブ室で検索してたら、亡くなったおじさんのメッセージが保存されているのを発見。夜は、その声を聴いて涙を流したりした。」</p> <p>図書館は「知の拠点」と言われているので、亡くなった人達の技術や自分の生きていた証を図書館に置くことは、他の自治体でもやっていない素晴らしいサービスになると思います。ぜひ進めてください。</p>	
45	—	全体		<p>図書館のあり方の作成のために予算が割かれたことは良いことだと思う。ただ、ワークショップへの参加人数が少なく、普段から利用している年代の方々の参加が少ないことは大変気になるところである。</p>	<p>あり方を実現する取組の中で、今後も引き続き市民とともに検討を行ってまいります。この市民との検討に際しては、誰もが参加しやすい方法や周知について配慮していきます。また、その活動の中で少しずつ新しい図書館像に関心のある市民を増やしてまいります。</p>
46	—	全体		<p>現在柏市の図書館カードの登録者数が20%と少ないことが書かれているが図書館の施設整備や職員の拡充に柏市として予算を費やしてこなかったことの結果と思われる。それは図書館行政の問題であり、図書館が必要とされていないこととは違うのではないか。</p>	<p>図書館利用カードの登録率が減り続けていることについては、真摯に受け止めております。社会の変化を見据えて、図書館が、市民や地域社会にとって役に立ち、広く市民から評価されるよう取り組んでまいります。</p>
47	—	全体		<p>P. 32「その他資料」6. 複本に関する資料(4)の図書館登録者率を見ると、柏市の登録率の低さは客観的に見ても危機的な状況であり、このままでさらなる図書館への投資は難しいと誰でも判断せざるをえないレベルです。</p>	

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
48	—	全体		<p>(案) P25 「豊四季台団地住民 80代独り暮らし女性」の事例にあるように分館を含める図書館の存在がその方の日々の張り合いになっているケースは数多くあると思う。ささやかであり数値化が難しいことであるが そうしたことで医療費や福祉の費用の削減、軽減になっているはずである。これからの人口減少の時代に図書館も縮小していかなければならない、という路線で書かれているが、むしろ、図書館を拡充することで街としての魅力が生まれ、市民一人一人が生き生きと生活する基礎となるのではないか。市民の財産である蔵書を守り、市民が安心して読書を楽しむスペースの確保のために 図書館の新設・分館の維持・職員や書庫の拡充は不可欠であると考えます。</p>	<p>策定する「柏市図書館のあり方」は施設整備の計画ではないため、ご指摘の内容等については記載しておりません。あり方の実現に取り組む中で必要に応じて検討を行ってまいります。</p>
49	—	全体		<p>柏市はプラネタリウムが図書館に併設されている珍しい例であるが、プラネタリウムに対する言及が「その他資料」の中の事業費への言及だけであり、現状有している図書館の機能が十分に考慮された「柏市図書館のあり方(案)」となっていない。プラネタリウムの事業費が非常に低く抑えられており、これは柏市図書館ならではの強みである。プラネタリウム事業を通じた知的活動、コミュニティ等を構築、発展させ、分館や学校図書館にも広める工夫があつてよい。宇宙・天文は自然科学、工学、物理学だけでなく、図書を含めた文化的側面とも密接にかかわっており、プラネタリウムの側面を図書館として強化することは柏市図書館の独自性として有望と考えられる。</p>	<p>いただきましたご意見を参考に、あり方の実現に取り組む中で検討してまいります。</p>
50	—	全体		<p>今回の「柏市図書館のあり方」策定後、柏市図書館で具体的にどのような取り組みをしていく予定なのか、「柏市図書館のあり方」策定に合わせて市民に示してください。あり方策定後、時間をあけると市民側の関心も薄れていきます。その際、さらなる検討を進めていく場合はより多くの市民が参加できる場を設けてください。P.11「協働でつくる図書館」で示されている通り、「市民も図書館の所有者・運営者であるという認識のもと、行政と一緒に図書館をつくり上げていくことが求められています。」</p>	<p>いただきましたご意見を参考に、今後も市民とともにあり方の実現に向けて取り組んでまいります。その際には、小さな実績を重ねながら、市民の関心を喚起してまいります。</p>
51	—	全体		<p>公共施設についての市民の要望をワークショップなどで丁寧に意見を聞き、形にまとめておりとても貴重な資料だと思います。これらの意見や理念・方針を無駄にしないために、「図書館に何が必要か」と狭く捉えるのではなく、「この基本理念や基本方針を実現させるためにどのようなものが必要か」という観点から大きく捉えて検討していただきたいと思っております。</p>	<p>社会教育の役割はこれまで以上に大きくなっていくものと考えています。社会教育施設である図書館として、広い視野から基本理念と基本方針の実現に取り組んでまいります。</p>
52	—	全体		<p>「基本理念」や「基本方針」に書かれているものを「図書館」で実現させることはかなり無理があるように思いました。特に、方針の「新しい価値を生み出す創造的な活動を支え、ひとづくり、地域づくりを育みます」や「つながり」の中に書かれている「コミュニティ活動の接点となり、ゆるやかなつながりを育みます」「公共の担い手やつなぎ手となる人材の活動を支えます」などのためには「地域の人々が交流する場」や「活動するスペース」が必要です。その意味で、この基本理念を実現させるための場としては「図書館」ではなく、「生涯学習センター」のようなものの方がより適切ではないでしょうか？例えば台東区の生涯学習センターなどは図書館に加えて、学習室や会議室、和室、研修室、トレーニング室、工作室など、コミュニティ活動や市民の交流を支援する施設となっています。 <a href="http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/gakushu/syougaiagakusyuucente/">http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/gakushu/syougaiagakusyuucente/</a> 図書館を利用したついでに、さまざまな市民活動に巡り合い、仲間や情報と巡り合うことができる貴重な場となっています。</p>	<p>国内で最近新設された図書館は、図書館機能のみの単館施設ではなく、ご提案のとおり、各種機能を組み合わせた複合施設が多くなってまいります。今回のあり方検討では、これからの社会に求められる図書館像について検討を行ってまいりましたが、今後、いただきましたご意見を参考に、具体的な取組や仕組みを検討する中で調査研究を行ってまいります。</p>

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
53	—	全体		柏市の図書館の在り方について、市民の意見を聞き、議論を進め、取りまとめたこと、大変素晴らしいことだと思います。しかし、未来の図書館像を語りながら、所々唐突に実務的な考え方が述べられている部分があり、全体で内容のレベルが一定せず、違和感を覚えます。	現実的で持続可能な図書館像を検討するためには、市の将来を直視し、課題を整理することが必要と考えました。そのため、実務的と捉えられる記述があることについてはご理解のほどお願いいたします。
54	—	全体		これからの図書館は学校との共存を図り、学校を拠点として地域を活性化させる等、「柏市図書館のあり方」は、文科省第3期教育振興基本計画に示されている「現状と課題」「次世代の教育の創造」についても内容を盛り込みよく纏められており、この方針で進めていくことについて、一市民として賛成である。	今後、あり方実現に取り組んでまいります。
55	—	全体		「あり方案」の内容は、これから柏市に必要な図書館の方向は指し示していると思われまます。ただ、「あり方案」の位置付けが明確ではありません。これまでにどのような検討がされてきたのか、今後どうしていきたいのか。少なくとも次の点は明示すべきではないでしょうか。 (1) 「新中央図書館」整備基本構想・基本計画の記載 これまでの取組がわかるように「はじめに」で言及するか、「その他資料」の「1(1)図書館の概要」を「図書館の経緯」もしくは「沿革」として、平成19年、20年の構想・計画策定と実施断念（延期？凍結？）に言及する。 (2) 「あり方」をめざし今後どうするのか 新たな図書館建設をめざして市として検討を続けるのか、「あり方」の実現に向け、市民に何を期待するのか、既存の図書館活動をどう変えていくのか。次の行動につながることを示す。これがなければ、「あり方」は宙に浮き、何のために検討してきたのかわからなくなってしまう。	(1)P. 34「1. 図書館の概要」以下、修正及び追記を行いました。 (2)今回策定する「図書館のあり方」は施設整備の計画ではなく、今後の図書館像やその運営をするための理念や方針を示すものです。今後は、策定したあり方に基づき、時代に即したサービスの検討や実現を市民とともに取り組んでいきたいと考えています。
56	—	全体		今回、「柏市図書館のあり方」についての検討WGに参加する中で、柏の未来に向けて市民のひとりひとりが主役となり街づくりに参加すること、私たちの暮らす柏をよりよい環境にするためには、皆で知恵を絞り主体的で具体的な取組みをしていく必要があることについて、深く考えることができた。 特に教育環境については、学校教育と生涯学習の融合や公共施設のセンター化等により、経費の節減や業務の効率化が図れること、それが市民にとっての利便性等にもつながること、そしてそのためには、既成概念から少し脱皮する勇気を持ち、創意工夫をしていくことが今、必要であること…。	ご協力いただきありがとうございました。あり方の実現に向けた取組みを進めてまいります。
57	—	その他		図書館(分館を含む)が単なる書籍の貸出所や書庫でなく、あり方(案)のような図書館が実現できるよう望みます。特に、西原分館は、現在105㎡しかなく、また、柏市公共施設管理計画の「再編方針」(案)では、西原近隣センターの移転と合わせ分館も移転、床面積は現状と同じ程度となっており、魅力ある図書館とは言いがたいので、あり方(案)により拡充してほしい。	
58	—	その他		本あり方(案)の範疇ではないかもしれませんが、「それぞれ特色のある図書館と分館の役割を有効活用するネットワークの確立、施設を誰もが容易に利用できるよう、コミュニティバスなどの事業確立が重要となっています。」などの課題も上げておく必要があると考えます。	

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
59	—	その他		本のセルフ貸出、返却を提案します。人件費が節減できると思います。いきなり完全セルフではなく、徐々にでよいと思います。月曜日が、定休日になっていますが、休みなく開放してほしい。それには、セルフサービスにすれば、可能になります。近隣センター同士の本の入れ替えを行います。例えば、永楽台近隣センターと増尾近隣センターを利用していますが、増尾近隣センターの方が、新しい本が多いです。近隣センターから遠い利用者からも喜ばれると思います。スポーツ新聞は、読むところがなく、廃止してほしいです。図書館の中に机があり、スペースが狭いです。改善として、新聞は、出入口付近に移動して、休憩室でも読めるようにすれば、もう少し広く図書館内の空間が、有効活用できると思います。	いただきましたご意見を参考に、あり方の実現に取り組む中で検討してまいります。
60	—	その他	<p>1) 開館時間、開館日の延長 「図書館の利用の面では、図書館利用カードの市民登録率は低下を続け、現在では2割を下回っている状況にあり、図書館離れが進んでいる…」と書いてあるのを読んで、当然のことだと思いました。また、なぜ、その1番の理由に気が付かないのか不思議でたまりません。 現在の図書館の開館時間は10時-17時（本館だけ水曜は延長しているようですが）です。一方、納税者の私たちは、ほとんどが企業勤めの会社員です。会社を定時に終わられるとして、17時。図書館はすでに閉まっています。利用したくてもできません。また、この年末に限らず毎年そうですが、企業勤めの私たちが年末休暇に入る前に、残念ながら図書館は休館になります。 すなわち、大勢の市民のことを顧みない運営だから、利用率が低下しているのだと思います。 そこで最初の要望としては、もっと開館時間を長くしてほしいです。人件費がかかるというのであれば、まず日中の職員を減らしたらどうでしょうか？新富のあの狭い図書館で3人、4人と必要でしょうか？（お客も3,4人しかいないのに）。企業はもっと少ない人数で、もっと多くの仕事をこなしていますよ？</p> <p>2) 柏駅前に大きな図書館（本館）を作る（そごう跡をそのまま使っては？） モデルとして参考になると思うのが、葛飾区立図書館です（すでに視察に行っておられるかもしれませんが）。私は2000年から7年ほど、葛飾区金町に住んでおり、その後、柏に家を建てました。今も職場は葛飾区なので、金町にある葛飾区の本館を利用しています（といいますか、葛飾区立図書館のほうが柏市の図書館よりも頻繁に利用できています）。葛飾も以前は小さな図書館ばかりで、蔵書は少なく、たとえ学生が勉強したいと考えても、そのようなスペースもない状態で、今の柏と同じ状況でした。 金町駅前に新しく大きな図書館（本館）が出来てからは、そこで学生が夜遅くまで勉強し、時には社会人グループが個室でグループ討議をしています。平日夜19時くらいには、私のような会社員が大勢、本を読み、本を借りに来ています。金町在住の人ばかりでなく、多くの人が電車やバスで来館し、利用しているようです。 この年末は通常22時までの開館時間が20時と時短になったりしますが、1日も休まず開館するそうです。見習ってほしいです。 私の感覚で申し訳ないですが、金町駅前に図書館ができる前後で、出来る前は中高生のヤンキーが駅前にたむろしていましたが、図書館が出来てからはそういう人も少なくなり、治安が格段に良くなったと感じています。 駅近で、夜も開館すれば、必ず利用者は増えます。そごうを居抜きで使ったらどうでしょうか？維持費がかかると言っても、人を育てるといえば（学生にそこで勉強してもらい、将来の高額納税者になってもらう）、安い投資です。ただ、高齢者などに配慮して、今の分館もそのまま存続させることは必要だと思いますが、現在、利用率が低いであろう生産世代や学生世代の利用率は上がると思います。</p>		
61	—	その他	公共施設の運営及び方針については、極めて重要なことは、公平（不特定多数）そして、直接市民の全体の公益及び向上に資する理念をもった施設であり、運営が必要だ。パレット柏をみると当然、理念運用として図書館行政を入れるべきである。身体障がい者、18時まで働く労働者、若者多くの世代にとって、市民の文化向上のため、パレットの図書館運用は必要である。		
62	—	その他	<p>図書館が1か所しかないのは淋しい。流山市に比べても大きく見劣りし、友人・知人との待ち合わせ場所とするのが恥かしい。図書数が少ない、読書環境が悪い、市民交流の場がないなど期待する施設になっていないために利用者が少ないと推測。文化都市を目指す、人口増への取り組みのため、</p> <p>①児童図書の充実 ②図書数の増加 ③読書環境を整え、市民交流の場を提供し生涯学習の拠点とするべき。</p> <p>交通の便を良くし、コミバスの運行を求む。</p>		

No.	頁	項目	属性	意見要旨	回答（市の考え）
63	—	その他		3歳の子供がおり、図書館の分館を子供と一緒に週に1回は利用しています。近隣センター内にあり、紙で置いてある子育て情報も同時に入手でき、近所にあり、子供との外出先としても重宝しています。子供の年齢によって読む本は変わってくるので、購入ではなく、借りられるのがとてもいいです。子供の本で読みたい本があると、検索すると蔵書にあることが多く、助かります。しかし、親が読みたい育児本は少なめだと思います。検索しても蔵書にないことが多いです。ぜひ育児本の充実も図って欲しい。また、リクエストの方法もわかりにくいので、わかりやすく表示して欲しい。	
64	—	その他		柏市内で最も人口増加が顕著でありながら、公共施設の整備が遅れている北部地域に対して、このような公共施設の整備が多く市の市民から期待されています。市民活動が盛んになりつつあるこのエリアの魅力を向上させることは、柏市全体のイメージアップにもなり、それにより柏市の人口減少を抑え、税収を確保することにつながると考えます。	
65	—	その他		「図書館離れが進んでいる」とありますが、図書館に行きたい、図書館は楽しいと思えるような場所にすることが大事ではないでしょうか。老若男女、障害のある人も、外国の人も、様々な人が集まってくるような、本が揃っているというだけでなく、関連するサービスの提供も必要と考えます。 柏市は人口40万人を超える自治体です。その規模にふさわしい中央図書館を希望します。近隣自治体の図書館と比較しても、現在の図書館はちょっとサビシイです。少なくとも、近隣市が備えるサービスは柏においても提供をお願いしたい。 図書館に働く人が、専門知識があるだけでなく、もっと明るく元気であってほしい。今働いている方々は総じて親切ですが、どちらかというと暗いです。困っているような来館者に「何かお手伝いしましょうか？」というような声かけもありません。捜している本が棚になくて倉庫(?)に行ってもらうのにちょっと嫌な態度を示した人もいました。教育訓練の充実も望みます。	職員の接遇についてお詫び申し上げます。いただきましたご意見は、今後の運営の参考とさせていただきます。